

IV 寄せられた声とその分析

アドバイザー会議では、活動の中で寄せられたたくさんの声を共有するとともに、分析を行ってきた。

各ヒアリング対象者の地域・年齢について、運営委員会内では考慮に入れたうえで分析をしたが、本報告書においては、個人情報保護の観点から、明記を避けた。

次ページより、下記テーマで寄せられた声とその分析を紹介する。

<テーマ>

- ・住まい
- ・親子の遊び場
- ・一時保育
- ・働き方
- ・年齢と子育て
- ・お父さん
- ・シニア世代との関わり
- ・就学・小学校との連携
- ・その他（情報、産前・産後、繋がり・関わり方、幼稚園、子育て基準）



住まい

- 子育て世代のための賃貸住宅が（もっと）あったらいいのに。
- 子育てに適切なスペースや安全性を持つ賃貸住宅は、公営でも家賃が高くて入れない。
- シングルマザー同士のシェアハウスがあるなら、シングルファザーのシェアハウスもあればいいのと思う。＜※シングルマザーではない母親の意見です＞
- 子育てマンションを探して入居したのに、「子どもがうるさい」と他の住民から不動産屋に苦情が入ったようで、「静かにしましょう」と貼り紙をされた。静かにするようと子どもを叱ると、注意の音が大きかったのか、今度は虐待を疑われ、児童相談所職員に3回も訪問されてしまった。
他の人の迷惑にならないようにと叱ると、疑われ、「こんな子育てしにくい環境だったら子どもの首をしめて…」とってしまう。
- 子育て家庭同士のご近所づきあいが難しい。引っ越してきたお隣さんが早く地域に馴染めるように、また同じ年代の子どもを持っているので仲良くできればと思い、おすそわけをしたり、行事に誘ったりしたところ、（相手は）何かに勧誘されると思ったのか、こちらを警戒している様子。庭の植木の水やりで隣の家の塀近くに行っただけで、（相手は）覗かれていると思うのか、カーテンを勢いよく閉めてしまう。お母さんの喚き声と子どもの泣き声がずっと響いているときがあるが、どう声をかけたらいいのか、どうしたらいいのかわからない。
- 三世代（おばあちゃん、義理の両親、自分達夫婦）での同居。世代間の関係はよく、夫とけんかしても、おばあちゃんに愚痴を聞いてもらったりできる。義理の両親に愚痴を言うのは、夫との関係が近すぎる（自分の息子だから）のでこちらも気を使ってしまう。嫁にとっておばあちゃんがちょうどよい距離。
- 多世代同居から核家族になったら、子ども達が「前のほうが良かった」と言ってさびしがる。大人にとっては、人間関係が窮屈になることもあるが、子どもにとっては、多世代同居のほうがいいのかと思った。



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

子育て世帯にとっての住まいに対する視点は、周囲との関わりにウェイトが置かれているように感じました。多世代同居については肯定的な意見も多かった反面、「お互いに遠慮してしまう」「子育て方針に食い違いがある」などの声もあがっていました。核家族化が進み、家族外とのコミュニケーションもとりにくくなっている子育て世代にとって、地域に「新しい家族の形」をつくるような住居のあり方や都市計画についても 提案していくことが必要なのではないでしょうか。

親子の遊び場

- 近所に子どもが遊べるような公園がない。
- 公園はあるが、草がぼうぼうで誰も寄りつかない。
- 公園が広すぎて、かえって交流が生まれにくい、顔なじみもできない。
- 近所の公園に行っても他に親子連れがおらず、自分達だけで遊んで帰ってくる。これでは家の中にいる時と変わらず、おもしろくない。
- 今は住居も学校も洋式トイレが主流。子どもが慣れていない和式のトイレしかないところ（公園等）は困ってしまう。
- 子育て支援センターに行っても、結局親子で遊ぶだけで、自分から誰かに話しかけなければ、誰とも会話せずに帰ってくることもある。
- 交流を求めて子育て支援センターに行っても、誰もいなくて自分達親子だけ。地域がら、面倒を見てくれるおじいちゃんおばあちゃんがいる、自然の中にも遊び場があるから、新たな出会いの場を求める人も少ない？
- 今は車に乗ってどこへでも行けるので、近くの公園や地域の子育てサークル等には行かなくなっているのではと感じる。郊外や県外の大きな施設に遊びに行く人も多いと聞く。
- ママ友との会合は、大型ショッピングモール。買い物をするわけでもなく、ベビーカーに子どもを乗せて店内を回りながら、話をして過ごす。1日中いる時もある。
- 子どもが安心して遊べる空き地が、なくなっている。小学校の校庭を放課後に開放してはどうか。地域の大人が見守る役割を担えば、安全管理もできると思う。



子育てどう(Do)?プロジェクトとしてのコメント

親子の遊び場として望まれているのは、自分の足で気軽に行けて、親子ともに仲間と過ごせる場所であるようです。しかし、そのような場としての公園や公的施設が、ニーズに即していない状態であるという声が多く聞かれました。

場のあり方を考えることから維持管理まで、行政等や特定の個人・グループに押しつけるのではなく、使う人みんなで話し合い、活用していくことのできる仕組みにすることも重要です。そのためにも、親子の場を、子育ての場としてだけでなく、世代間交流の場としても考えること、朝・昼・晩と多世代がそれぞれに使い道を持つような場を作り出すことが必要なのではないでしょうか。

一時保育

- 子どもと24時間向き合う日々。子育ては楽しいことばかりではなく、慣れないこと、思い通りにならないこともあり、疲れてしまって辛い時がある。（これでは自分にも子どもにも良くないと）リフレッシュするために一時保育を利用したいが、お金がかかるので躊躇してしまう。
- やむを得ない事情で子どもを預ける場合と母親のリフレッシュのために預ける場合とでは、預け先のスタッフの対応に温度差があるように感じる。母親が病気などで面倒が見られず預かってもらう時は、快く引き受けてくれるが、リフレッシュとなると「何で預けるのか？」という雰囲気を感じてしまう。
- 母親も子どもを預けるときには、罪悪感があるし、預けるのがおばあちゃんなど身内の場合でさえも遠慮してしまう。しかし、気持ちを切り替えて預けないと本当にリフレッシュできない。
- 託児付きで格安の習い事（産後ヨガやエアロビ、コーラス等）が欲しい。「ママ向け」と書いてあっても託児体制が整っていない場合が多く、年齢が小さい子がいると参加できない。
- 子どもの急な体調不良の際、預かってくれる施設が欲しい。
- 授乳中で体がぼろぼろのときに骨折をしてしまった。実家は遠いし近くに頼れる人もいない中、一時保育を利用したいと思ったが、1歳からしか預かってもらえないところが多く、預けられなかった。ハイハイを始めた0歳の息子と2人で過ごすのはとても大変だった。一時保育の預かり月齢をもっと下げてほしい。
- 一時保育を利用するにも地域によって抵抗がある。田舎だと、近くに世話をしてくれる身内がいるのに、なんでわざわざ他人に預けるのかという感じを受ける。



子育てどう(Do?)プロジェクトとしてのコメント

様々な理由での一時保育の質と量が緊急に求められていると感じました。特に、母親のリフレッシュのための一時保育へのニーズは高いのですが、一方で、周りの目を気にする意見も目立ちました。また、0歳児の一時保育の場が少なく、孤立して困っている母親が多い実態もありました。

「一時保育」という言葉がよく聞かれるようになったのは最近のことです。以前には地域の人間関係で支えられていたものが、なくなってしまうためとも考えられます。長期的な視点で見れば、地域の子どもを皆で育てる関係性の構築も重要だと思います。

働き方

- 子どもが小さいうちは、フルタイムで働くことに抵抗がある。かと言って、週2～3日のパートタイム勤務では、子どもを市町村の認可保育所に入れてもらえないため、無認可の保育所に預けるしかなく、それでは料金が割高なので収支が合わない。働きたいと思っても、フルタイムか専業主婦かの選択肢しかないのはつらい。
- 職場には、検診・予防接種休暇や育児休暇などの制度はあるが、特に男性は、よっぽど凶々しくないと使いづらい。制度はあっても、職場の雰囲気や休暇をとりやすいかが決まってしまう。
- 結婚を機に、夫の故郷に引っ越し。知らない土地で知り合いもおらず、他の母親たちと知り合ったのは、町が主宰する子育て教室だった。地域の母親たちが集まれる子育てサロンのような場を作り、さらにその運営をすること＝“仕事”として成り立てばいいなと思い、ベビーマッサージの資格を取った。同じ働くでも、スーパーのレジのような“単なるパート”ではなく、資格も活かし、かつ子育て支援ができる仕事をしたいと模索中。このような場が仕事として成り立てば、自分の子どもとも関わりながら仕事ができるし、母親も社会にも参加できると思う。
- 0歳から子どもを預けて働きたいと言ったら、互いの両親ともに3歳神話を元に大反対した。子どもが大きくなるまで母親は子育てをするものという考えが根強く、出産前のキャリアや仕事を捨てるを言われているようでつらい。仕事も簡単に辞められないし、辞めたくない。
- 生後二か月から、保育園に子供を預けて復職。親が仕事で忙しくあまり関われなくても、保育園の先生方など、良く見てきちんと育ててくれている人が周りにいれば、子どもは育つと思った。また、子ども何でもかんでも親に頼るのではなく、自分のことは自分でやるという姿勢が身についている。
- 週1～2日勤務のニーズは多いので、ワークシェアリングができるようになるといいと思う。



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

家計を支えるため、あるいは自分自身の生きがいを求めて「働きたい」という声、「子どもとの時間も大切にしたいので、週2～3日の働き方をしたい」という声もありましたが、企業や保育制度がそれに応えられない実態があるようです。

そのような現実の中から、ベビーマッサージやベビーサイン等、乳幼児の親子に需要のある分野で資格をとり、自ら教室を開講して自営で働こうとする母親も増えていると感じました。

様々な形で母親が社会と接点を持てるようにする仕組みが求められているのではないのでしょうか。

年齢と子育て

- 40歳を過ぎると、自分自身の身体にこれまでにない変化が生じてくる。若い頃は、体の動きも軽いし、テキパキとこなせていた。疲れていても、子ども優先に考えられていた。しかし、今は自分の体とどう付き合っていくか考えることが多くなり、子どものことだけを考えてはられないし、見てられない。
- 第一子と末っ子とでは年齢があいている。末っ子の子育てをしていると、「若い頃はこんなこともできたのに」と、“若いころの子育て”と“今の子育て”とを自分自身の中で比べてしまう。成人になった第一子の子育ては“精神面”、末っ子の子育ては“体力面”と求められることも違ってくる。悩みもそれぞれなので、接し方も変えないといけない。
- 自分は年をとっているのに、若いお母さんに挑戦じゃないけど、「年相応の子育てをしなければ」という気持ちがある。
- 「もう若くないんだから早く産まない」と、「年をとってからの子育ては大変よ」という周りからの言葉がづらい。悪意はないのかもしれないが、プレッシャーになってしまう。
- 出産よりも、その後の子育ての方が心配。体力面もそうだが、経済面も心配になる。
- 第二子が欲しいが、なかなか授からない。不妊治療をしているが、年齢のことを考えると、いつまで続けたらいいのか迷ってしまう。
- ママサークルやママの集いなどママさんの集まる場所は、自分より若い年代の人が多くて、なんとなく参加しにくい。
- 周りのママより年齢が上である分、特に第二子以降の子育てにおいては、リーダー役、調整役として立ちまわるようにしている。そのほうが居心地がいい。



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

30代後半、40代の子育ては、成熟した大人がゆとりを持って子どもに向き合うことができる、と一般的に思われていることが、当事者にとって負担になる場合も多くあります。

多くの母親にとって、どんな年齢であっても初めての子育てには不安も多く、毎日が未知との遭遇です。子どもが多かった時代には、同じ年代の話しやすい親が、第三子、第四子の親として側にいて、話を聴いてくれ、子育てのリーダー的存在として、若い親たちと自然につないでくれるようなこともありましたが、少子化の進む今、なかなかそれは望めません。

年齢に関係なく、子育て中の困難に寄り添う支援と母親が自分をケアすることのできる機会が求められているのではないのでしょうか。また、高齢出産のグループのような、同じような年代の親たちが、出会い、つながれるような機会をつくることも必要なのでしょう。

お父さん

- 夫のいいところは、「趣味の〇〇が得意」「買い物のときに子どもを見ていてくれる」ということだけしか言えない。もっと直接子育てに参加してほしいと思う。
- 0歳児の母親で、専業主婦。夫は、仕事でもお昼休みに帰ってきてご飯を作ってくれる。理由は「亭主元気で留守がいい」というような扱いをされるのが腹立たしいからとのこと。
- 夫は、料理も洗濯も掃除も仕事のようにこなす「イクメン」。自分はそんなに家事ができるほうでもなく、「男は仕事、女は家庭」の両親に育てられたからか、夫に対して罪悪感を感じる。
- 子どもが寝る時間と夫の帰宅時間が重なってしまう。夫が帰ってくると子どもは起きていたくて寝てくれないので、子どもを寝かしつけるために、夫には時間をずらして遅く帰ってきてもらうようにしている。
- 夫は、よく子供の面倒を見てくれるし、子育てにも協力してくれるのでとても助かっている。何もしてくれない父親だったら帰ってきてもらっても仕方がないと思う奥さんがいるかもしれないが、手伝ってくれる父親だから仕事から早く帰って来てくれないかなと思う。頼りにしている。
- 父親に子育てに参加してもらうためには、父親に早く帰ってきてもらえる社会の仕組みづくりから始めないといけない。
- 仕事で帰りが遅い父親を子どもが寝ないで待っている。平日は顔を合わせる時間が少ないので、朝ごはんの時間などちょっとした時間を大切にしている。子育てに参加する方法として、ちょっとした時間でも大切に子どもとの関わりを持つこと、妻の話を聞くことを心がけている。【父親談】
- 母親との役割分担として、子どもをきちんと叱るのが父親の役目だと思う。【父親談】
- 平日は妻と子どもが家で二人きりで、妻が育児に疲れ気味になってしまった。休日は家でゆっくり休みたいと思うが、妻と子どもと外出して、妻が気分転換できるようにしている。【父親談】



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

子育てに参加しない（できない）夫への不満の声がある一方、夫をそうさせている社会のシステムに不満を向ける母親もいました。また、男性が世間から「イクメン」を推奨される中で、夫婦の意識のずれや不自然さも生じてきているように感じました。

今後の子育て支援においては、男性の立場からも考える必要があると思います。父親の子育てへの参加が大切であることは言うまでもありません。しかし、家計の事情などで遅くまで働かざるを得ないという場合もあり、そのような父親に多くを求めることも難しいのではないのでしょうか。働き方について、男女ともに再考する必要があると感じました。

シニア世代との関わり

- 年配の人から「昔は良かった」「私のときはこうだったから今のお母さんもそうすべき」というもの言いがある。今は子育ても多様化。自分の経験だけで一様にものを言うのはどうかと思う。
- 「〇歳のわりには小さいわね」、「そうじゃなくて〇〇したほうがいいわよ」など、立ち話で言われるような何気ない言葉でも、子育てに不安を抱いている時は、自分の子育てが間違っているのだろうかとより不安になったり、私は駄目なのかと傷ついてしまう。
- いやいや期の2歳児に対して、たまに来る義母・実母がともに「ぶってもいい？」と聞いてくるので、「だめ」と言い続けている。今と昔では、体罰への意識が違うと感じる。
- 近所を散歩していると、シニア世代の方とよく会う。交流を深めたいと思うが、挨拶するだけで、それ以上の関わりはない。身内のシニア世代だけではなく近所に住むシニア世代の方にも子どもと関わってほしいと思う。
- 親戚や両親など自分の身内だと子育てに対する“アドバイス”ではなく、価値観の違いを言われやすいので素直に聞けない。しかし、先輩達の話も聞きたいので、近所のシニア世代との交流はしたい。第三者だから耳を傾けられることもあるし、悩みを話せることもある。
- 祖父母が、子育てしている娘・息子・嫁に遠慮している。
- 子育て世代をどうサポートしたらいいかわからない。＜※シニア世代の方の意見です＞
- 孫と接する時、自分の価値観や自分の経験を押し付けないように、今の若い世代の人の子育てはどうなんだろうと聞いたり考えたりするようにしている。＜※シニア世代の方の意見です＞
- 働き盛りで仕事が忙しく子育てに参加することができなかった。今は、仕事も終え、時間に余裕が出来た分、孫の子育てを手伝いたいと思っている。＜※シニア世代の方の意見です＞



子育てどう(Do?)プロジェクトとしてのコメント

これまでの生活の中で、子育てに関わる事が少なかった母親たちが、希薄な人間関係の中で、少しでも何かを言われたら不安になり、フォローも受けられずにさらに不安になってしまうという流れがあるように感じました。

一人ひとりの親の背景、社会状況を前提としての声かけのあり方は、シニア世代に関わらず、すべての世代が共通して考えていくべき課題だと思います。

一方で、特につながりの薄い地域で子育てをしていて、声をかけられることもない母親たちからは、近所でよく見かけるシニア世代に関わってほしいという意見もありました。シニア世代としても、サポートしたいが遠慮しているという実態があるようです。お互いが尊重しあいながら関係を作り、子どもたちを育てていける環境づくりが必要だと思います。

■ 就学・小学校との連携

- 子どもが未就学児の段階で発達障害と診断されたが、情報がなくて今後のことがまったくわからないので不安。同じような境遇の方たちにもっと話を聞きたい。
- 子どもが通っていた保育園では、園の方針として文字の指導は行っていない。小学校に入るまで文字を使わなかったため、入学後ずいぶん経ってから文字が書けないことに親は気がついた。文字が書けずに小学校に通っていた本人は大変だったと思う。入学前に分っていたらよかったのかなと思う。
- 保育園や幼稚園は、それぞれの園で特色がある。いろいろな教育方針で育った子が、同じ小学校に入るとギャップがある。
- 保育園や幼稚園はお迎えがあるので、園での子どもの様子を見ることができる。そこで、保護者同士も交流ができるし、先生達とも話ができるので、開かれた感じの中で子どもを預けられた。しかし、小学校に入ると学校に足を運ぶ機会も減るので、就学前と比べて閉鎖的になる感じがする。PTA活動に参加すればと言われるが、働いているとなかなか参加できないと思う。どうやって学校とコミュニケーションをとっていけばよいのだろうか。
- 小学校は、保育園や幼稚園のように保護者がふらりと立ち寄って、様子を見ることができる雰囲気ではない。子どもがどんな生活を送っているのかは気になるので、地域の人が気軽に立ち寄れるような環境ができればいいなと思う。
- 保育園や幼稚園で培ったネットワークが小学校に入ると途切れてしまう。一人ひとりの子どもを、小さい時からずっと見ていてくれる大人と、つながりを保てればいいなと思う。
- 幼稚園や保育所でもいじめがある。子どもが親にも言わないし友達にも言えないようだ。いじめが起きた時、親はどのように関わっていったらいいのか。
- 第一子の場合は特に小学校での生活が分らないし、小学校に上がることに對して漠然とした不安がある。小学生の子を持つ先輩ママの話を聞く機会が欲しい。



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

「発達障害」に関しては、十分な情報を得られず不安になり、特に小学生になってからのことを心配する親が多いようでした。診断を受けても、「診断後のサポートが薄く、不安が増した」という声もありました。

また、未就学児とともに小学生の子を持つ親からの意見で特に多かったのが、就学前と就学後の子育て・子育て環境の大きな変化に対するものでした。就学前から就学後の子育て・子育てをつなぐ人や仕組みの存在が求められていると感じました。

☐ その他

【情報】

- 子どもが0歳の時、多くても1時間しか寝てくれなかった。そのときは本当に暗黒時代で、今思えば育児ノイローゼになっていた。「寝ない赤ちゃん 何で」などと検索してネットで調べ、いろいろな人の意見を参考に試してみても、うまくいかずに負の連鎖が続いていた。
- 悩んでいる人ほど見る育児書が、ストレスの原因にもなる。あんなに立派に離乳食を作れない。
- 子どもとの遊びは、おもちゃがあればいいというものではない。その月齢の子どものに合わせた遊び方の情報がほしい。「〇歳児集まれ」というようなイベントも、ママのストレス発散のためという目的に偏りがち。
- 不要になった物を寄付したり、譲ったりできる施設の情報、病院（ネットで予約できるか）、公園や遊び場(どんな遊具があるか)等の子育て情報一覧があると便利だと思う。

【産前 産後】

- 出産前の情報は、悪いことも知っておきたい。つわりがこんなにひどいと思っていなかったし、出産がこんなに痛いと思わなかった。また、こんなに自分の時間がなくなるとも思わなかった。
- 産後のママのケアについて、腰のケアのための骨盤ベルトの情報はたくさんあるけど、腱鞘炎のケアのための情報はあまりなくて、お医者さんでも「動かさないように」とか大変なテーピングの仕方とか、現実味のない対策しか提示してもらえないことが多かった。簡単なマッサージやテーピングの仕方が雑誌などに掲載されていると、手軽にできるので嬉しい。
- 下の子がいる分、2人目の妊娠期のほうが1人目よりも大変だった。2人目以降も妊娠期のサポートを厚くしてほしい。
- 産んだ人に対するサポートは色々あるけど、産みたくても産めない人（不妊の問題）に対するサポートも、資金面精神面ともに、もっとあったほうがいい。そこを支援すれば、子ども自体が増えていく可能性があるのだから。

【繋がり・関わり方】

- 0歳と1歳の差は大きく、一緒に遊ばせることは難しい。1歳は目と手が離せず、ママ友どうしでゆっくり話ができない。同じ0歳でも月齢が違えば遊び方が全然違う。0～1歳のときに年齢、特に月齢が同じ子どもを見つけるのは難しく、見つけたとしても、ママ友となる確率はさらに低い。
- 友達の家に遊びに行った際、子どもに注意したら、嫌な顔をされた。友達でさえそうなのだから、他人の子どもを注意するのは躊躇してしまう。
- 専業主婦で子どもと二人きりの毎日だと、社会から取り残されてしまっているような気がする。子育て中でも社会に参加したい。

【幼稚園】

- 公立幼稚園は、料金が安い人気がない。PTA活動で草取りなどの作業があり、毎日のお弁当づくりや年間行事以外に手をとられたり、2年保育で統一されていたりすることに不満がある人が多い。私立幼稚園の3年保育やアレルギー対応などのサービスにニーズがあると感じる。
- 幼稚園のPTA活動に積極的に参加することで、子育ての悩みの半分は解決できると思う。

【子育て基準】

- 一人っ子なので、失敗することを恐れているのではないかと感じる。兄弟がいなくて手本が見せられないので、色々な人との触れ合いの中でコミュニケーションをとらせたい。刺激を受けてバランスよく育ててほしいと思うので、早めに集団活動に参加させたい。
- 子育て支援センターなどでよく聞かれる「早いね」というほめ言葉。「早いことは良いことなのか？」という問いかけが必要だと思う。
- 子どもの頑固さやこだわりが強い。このまま大きくなったら良くないのではとってしまう。
- 子どもにごめんなさいを言わせる前に、親がきちんと子どもに対してごめんなさいを言えるかどうか大事だと思う。
- 子どもが生まれると、「しばらくは子育てに専念してね」と言われてしまう。子育てに専念したら周りにつながりを求めるのが難しいので孤独になってしまう。
- 今は1歳から通える様々な幼児教室がある。自宅がある地域は田舎なので幼児教室はないが、大きな町に行くと沢山教室があるし、ショッピングモールの中にまでも入っている。早期教育が大切などと聞くと、「早くから通わせた方がいいのかな。」と悩んでしまう。
その反面、自宅がある地域のように「のんびりした環境で育てる方がいいのかな」とも思うが…。いつからどのような教育環境に身をおいたらよいか考えてしまう。



子育てどう(Do)?」プロジェクトとしてのコメント

多くの母親たちが、限られた人間関係の中で、インターネットや雑誌、育児書でも情報を集めて選択して、一生懸命に子育てしている様子が伝わってきます。その人その人の選択を支援し、何か聞いてほしいことやしてほしいことがあったら言えるような人間関係を作ることが、一番の子育て支援なのではないでしょうか。

また、「短時間で簡単にできる夕食を知りたい」、「子どもにテレビを見せる時間はどのくらい」、「1日の時間をどうやって使っているの」など、生活の中で感じている困りごとでも聞かれました。母親同士が気軽におしゃべりをして解決できるような“場”も大切なのではないのでしょうか。